

周辺地盤や既設構造物への影響を 最小限に抑える 深層混合処理工法です。

近年、都市部での地盤改良工事の需要が高まるに従って、近接の既設構造物への影響がこれまで以上に懸念されるようになりました。

深層混合処理工法(CDM工法)は、他の地盤改良工法に比べて、もともと変位の少ない工法として広く採用されてきましたが、変位低減型深層混合処理工法(CDM-LODIC工法)では、従来の攪拌混合翼の上部にスクリーを取り付け、セメントスラリーの投入量に相当する土量を排出することにより周辺の地盤や構造物に影響を与えることなく施工することを可能としました。

本工法のスクリーの形状には、連続型、断続型、プロペラ型などがあります。

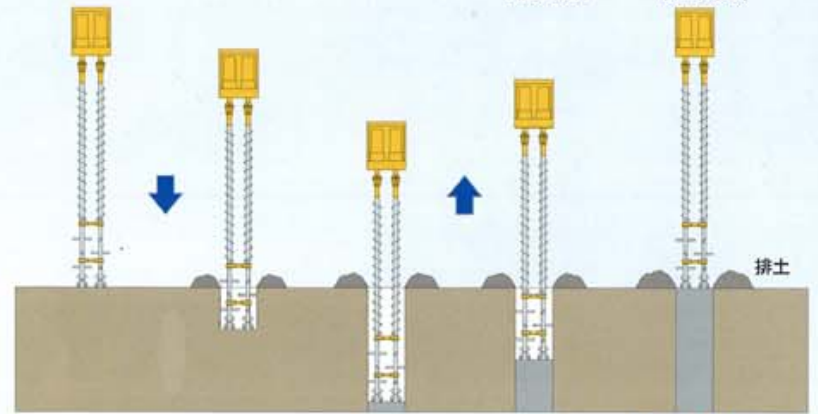
また、適切な排土量を管理する新開発の施工管理計により、信頼性の高い施工を行います。

なお、本工法は特許工法であり、下記の特許を基本にしています。

- 特許登録番号：第1838688号
- 特許登録番号：第1848689号
- 特許登録番号：第2132872号

■ 施工手順

- 1 施工機の位置決め
- 2 貫入
- 3 先端部処理
- 4 改良材吐出引抜き攪拌
- 5 攪拌翼洗浄 施工後移動



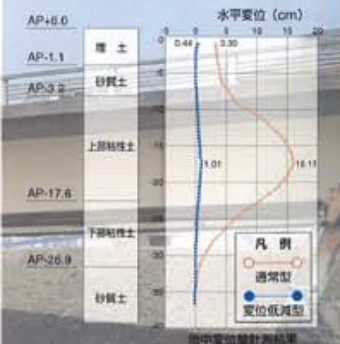
2又は4で排土する

■ 施工管理システム



■ 変位測定結果

施工地点から1.5m離れた地点に地中傾斜計を埋設し、通常型との影響の比較を行ったものです。



施工管理モニター画面



出力

項目	値
材料	...
品質	...
出来形	...
変位	...

出力